

研修名 幼児教育・保育

平成30年6月15日（金）10:00～12:30

講演 「幼児期のふさわしい生活」

「遊びを通して学びに向かう力を育む環境構成」

「一人一人の発達の特性に応じた支援及び他職種との協働」

講師 鳴門教育大学大学院 木下 光二 氏

・保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけは、卒園時までには育てて欲しい姿を意識し、主体的な遊びを中心になっている。幼児期に遊びこめているかが、小学校で学び込める力になっていく。

・子どもがしていることは意図がある。やりたいことを自分で見つけて、子ども自身が環境に働きかけているのか？

・保育の質は、子どもが自ら遊んでいるか、遊ばされているかの差ででてくる。子どもと作る保育が大切である。「～はダメ」をやめる。危ないから使わさないといつまでも使えない。

どういう子どもに育てたいかを、保護者に伝え、環境をどう作るか？変えようとする気持ちをもつ。

・改訂の趣旨の2つのキーワード

AL…アクティブラーニング。主体的で対話的で深い学び。環境から見つけて学んでいく。

CM…カリキュラムマネジメント。うまくいかない時、何を変えたらいいか。

・幼児教育では①知識・技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力、人間性を遊びを通しての総合的な指導を行う。小学校以上もこの幼児期の3つの資質を土台になる。

・幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿のイメージ

健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・模範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり、生命尊重・公共心、数量・図形・文字への関心、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現

保育事例をみながら、この育てて欲しいことのどの事柄になっているのかを分析していく。

・保育の記録をとる時は、事実のみ、子どもの言葉を入れる、園内での職員で読むものなので、「〇〇が」とはっきり明記しておく。

・幼児期が充実すれば、小学校以降も充実できる。いかにそこを育てていくかにかかっている。

・保育園から小学校の先生に「どのように育ってきたのか？」を、小学校の先生から保育園に「どのように育っていくのか？」を伝えていく。小学校で正しく評価してもらうために連携していく。

感想

・講師の先生の幼稚園は、自由でのびのびした環境で子どもたちがやりたいことを自らみつけて楽しみ、遊びこんでいた。ただ放任しているのではなく、子どもがどのように関わっていくか？を予想して、環境を整えておくことが大切である。

・子どもの遊んでいる姿を見守り、何をしようとしているのか？を感じていくことが大切だと改めて思いました。例えば、「霧吹きを窓に吹き付けて遊んでいる子どもがいて、それを楽しそう！と感じて見守っている」という事例を聞いて、子どもの気持ちを共感していて素晴らしいなと思いました。「そんなところに霧吹きをして！」と否定的になり、楽しんでいるものをやめさせてしまうところを、まずは子どもの気持ちに寄り添ったり、それを継続できる環境を作っていくことを学びました。

・この研修を通して、子どものしていることに注目して、いろいろな観点をもって見守っていきたいと思いました。

・小学校に向けて、子どもが自ら感じたり、考えたりする力をつけていけるように環境や保育士同士の連携を大切にしたいです。

(記録 八幡市立南ヶ丘第二保育園 乾 陽子)

